

愛知教育大学における情報入試の取り組みについて

愛知教育大学教育学部准教授 齋藤 ひとみ

1. はじめに

教科情報が2004年に導入されてから10年、情報科を取り巻く現状は必ずしも安泰ではない。澤田(2008)は、情報科が一部の教育現場において軽視されている現状を述べ、大学の入試科目として情報があまり採用されていないことを情報科の現状が改善されない要因の1つとして挙げている。

しかし、今年度から新学習指導要領の実施により、情報科も科目構成などが変更になった。また、明治大学情報コミュニケーション学部が2013年度入試の科目に情報を導入し、さらに慶應義塾大学環境情報学部が2016年度入試への導入を表明するなど、情報入試の取り組みにも新しい動きが起こりつつある(情報入試研究会, 2013)。

愛知教育大学情報科学コース(旧情報教育課程)は、2007年度入試から2012年度入試まで、情報入試を実施してきた。本稿では、情報入試を取り入れた背景と現状、および教員養成大学としての教科「情報」への取り組みについて報告する。

2. 愛知教育大学における情報入試の取り組み

表1に示すとおり、愛知教育大学の情報入試は、2007年度入試の情報教育課程の後期の一部として始まった。これは高校での教科「情報」の進行に合わせたものであった。本学では2007年度入試に向け、東京農工大学が実施した試行試験に会場校として参加し、試行問題について検討した。また担当教員間で問題を作成し、議論を行い、情報入試に対する意識を高めていった。

愛知教育大学で情報入試を取り入れた背景には、2つのねらいがあった。1つは情報科の教科としての重要性を高めることである。新しい教科

表1 愛知教育大学における情報入試

課程・コース	年度	日程	センター試験	個別学力検査
情報教育課程	2006	後期	国・数・外 【3教科4科目】	総合問題
	2007	後期	【A選択】 国・数・外 【3教科4科目】 【B選択】 国・地区公民・地・教・外 【5教科7科目】	情報※1 総合問題 数
現代学芸課程 情報科学コース	2008 ~ 2012	後期	国・数・外 【3教科4科目】	情報※2 総合問題
	2013	後期	国・地区公民・地・教・外 【5教科7科目】	総合問題

※1: 普通科「情報」の情報A・情報B・情報Cの各科目に共通する内容
 ※2: 普通科「情報」の情報A・情報B・情報Cから

である情報は、社会的なスキルとしての需要が高まっているにも関わらず、教科としての重要性が十分認識されていなかった。そのため、情報入試を行うことで情報の教科としての位置づけを明確にしたいというものであった。またもう1つは、教科「情報」で身に付けてほしい内容を大学からアピールすることである。新設教科である情報は、教科内容や教育方法に関する研究の蓄積が少ない。また、他教科に比べ技術や社会の変化に影響を受けやすいことから、何を学ぶべきか、何を教育すべきかが捉えにくい教科である。そのため、情報入試を通じて、情報に関する専門教育を行う大学から、教科「情報」で何を学ぶべきかを提案したいというものであった。

情報入試を行う上で一番問題になったのは、各科目の性格の違いを考慮しなければならないことであった。各科目は情報教育が目標とする3つの観点のどれを重視するかが異なるため(図1)、科目によって不公平が生じないように問題作成を行うことが求められる。特に初回の実施であった2007年度入試では、3科目共通としていたため、各科目の範囲内かどうかについて担当者間で慎重

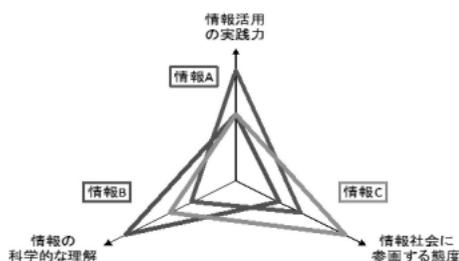


図1 情報A・情報B・情報Cの構成

に議論を重ねた。2008年度入試以降は各科目から1（科目）とし、3科目に共通する基本的な内容を共通問題とし、重ならない部分を選択問題として対応した。共通問題は、指導要領や指導要領解説、各科目の教科書を精査し、共通の内容として十分判断できる内容を設定した。また選択問題は、比較的共通部分が多いと思われる情報Aと情報Cに対応する問題と、「情報の科学的な理解」を重視する情報Bに対応する問題を出题し、学生に自由に選択させる形式をとった。

試行錯誤を繰り返しながら6年間実施してきた情報入試だが、2012年度入試で終了する形となった。これは、大学全体の入試制度改革により、後期の個別学力検査を1科目にすることとなったからである。表1に示すように、これまでは教科「情報」に関する内容を問う情報と、情報に関連する数学や英語の能力や論理的思考力を問う総合問題の2科目で実施してきた。情報と総合問題のどちらを残すべきかについて議論した末、出題できる問題の幅が広い総合問題に統一することとなった。そのため、総合問題の内容を「論述形式、多肢選択形式等の問題を通して、本コースに必要な情報についての基礎的な知識やそれに関連する数学や英語の理解、論理的思考力などを総合的に見る」と設定した。今後は総合問題として、情報に対する興味・関心、情動的な考え方を評価できる問題の出題をめざしていく。

3. 愛知教育大学における教科情報の教員養成の取り組み

教科「情報」だけでなく、小中高における情報教育や、教育の情報化を進めていくためには、情

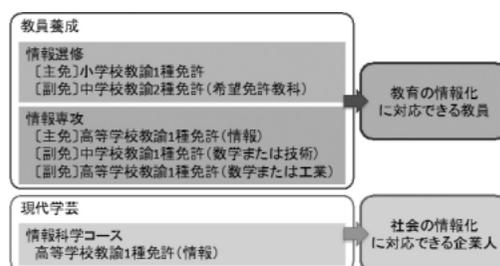


図2 情報選修・専攻、情報科学コース

報の専門的な内容や教育の情報化に対応できる教員の育成が課題である。

一方で、情報科の教員採用の現状をみると、複数免許の所有を条件とする自治体が多い。愛知教育大学では、教員のICT活用指導力向上と、情報科の教員採用の現状をふまえ、2007年度に情報教育課程から初等教育教員養成課程情報選修、中等教育教員養成課程情報専攻、現代学芸課程情報科学コースへと改組を行った(図2)。情報選修は、ICTを活用した教育など教育の情報化に対応できる情報に強い小中学校の教員の育成を、情報専攻は、情報科学を専門とした複数免許を持つ情報科の教員の育成を目的としている。情報科学コースは、地域社会の情報化に貢献できる人材育成を目的としている。今後も、教員養成大学の立場から、教科「情報」や教育の情報化を積極的に支援していく。

4. おわりに

本稿では、愛知教育大学の情報入試と、教科「情報」の教員養成の取り組みについて紹介した。我々のくらしに情報機器が普及する中、教育現場への普及が今後の課題であり、情報入試はその流れを促進する上で重要な役割を担っている。

参考文献

- 澤田大祐. 高等学校における情報科の現状と課題. 調査と情報, (604), 1-10, 2008.
- 情報入試研究会, 情報入試フォーラム2013 資料集, 2013.
- 文部省. 高等学校学習指導要領解説 情報編, 2000.
- 中野由章. 高校「情報」教員採用試験状況. 中野情報教育研究室, <http://nakano.ac/index.php> (Retrieved: 13/03/26).